よりよい学級の生活づくりに向けて，互いに尊重し，よさを認め合う子どもを育成するためにはどうあればよいか(第一年次)
ー学級活動と日常指導の関連を図った指導と評価の一体化をめざしてー

長期研究員　佐 藤　和 仁

Ⅰ　研究の趣旨

学級活動(1)「学級や学校の生活づくり」の指導の中で，実現が難しそうな友だちの意見に対して，その意見に込められた思いに共感し「こんなルールに変えると，〇〇さんの意見で楽しめると思います」と考えを深めていく子どもの姿が見られることがある。このような望ましい人間関係を形成していこうとする態度は，一人一人の思いや願いが尊重されたり，互いのよさを認め合ったりするといった集団の質を高めることにつながっていく。

しかし，自分のこれまでの指導を振り返ると，上記のような集団活動や実践のよさを見取り，それらを実践に生かせるような価値付けができていたか，このような態度をはぐくむために意図的・計画的な指導ができていたかは疑問が残る。

以上のことを踏まえ，本研究では学級活動(1)を中核にし，学級活動(2)「日常の生活や学習への適応及び健康安全」や日常指導との関連を図りながら，指導と評価の一体化をめざし，意図的・計画的に指導にあたっていきたい。そして，このような指導を通して，子どもたちによりよい学級の生活づくりに向けて自らの実践のよさを実感させ，生かしていく経験をさせていくことで，互いに尊重し，よさを認め合う子どもを育成していきたいと考えて本研究主題を設定した。

Ⅱ　研究の概要

1　研究仮説

学級活動(1)を中核としてマネジメントサイクル（PDCAサイクル）を通して意図的・計画的に指導していけば，互いに尊重し，よさを認め合えるような子どもをはぐくむことができるであろう。

Plan‥‥個から見た集団の課題を踏まえた指導計画の作成
Do‥‥‥課題に沿った学級活動及び日常指導の工夫
Check‥学級活動(1)の実践における見取り
Action‥実態及び課題把握，指導改善の方向性検討

2　研究の内容

(1)　Planについて

〇　担任との協議による学級経営案の作成
〇　Q－Uによる学級集団の分析
〇　個から見た集団の課題を踏まえたテーマスキル※1設定
〇　学級活動の指導計画作成　　〇　日常指導の計画作成
※1　テーマスキルとは，学級集団の育成上の課題となるスキルのこと。

(2)　Doについて

学級活動（1）
〇　計画委員会指導（議題の吟味，話合い項目の焦点化）
〇　学級会ノートの記入指導　　〇　アンケートの取りまとめ
〇　提案理由の共有化　　〇　三段階討議法の指導
学級活動（2）
〇　テーマスキルを踏まえた題材設定　　〇　個々の課題把握
〇　具体的な自己決定への指導　　〇　実践の振り返りと相互評価
日常指導（朝，帰りの会）
〇　ソーシャルスキルトレーニング（SST）※2の実施
※2　ソーシャルスキルトレーニング（SST）とは，良好な人間関係をつくるための知識・技術・コツを，場面を想定した体験を通して身に付けさせること。

(3)　Checkについて

〇　ビデオによる話合い内容の検証
〇　ディスカッションダイヤグラム※3による記録の分析
・　発言内容の分析と評価　　・　発言のつながり方の分析
〇　学級会ノートの記述内容整理
〇　振り返りカードによる自己評価及び相互評価
※3　ディスカッションダイヤグラムとは，話合い活動における発言を時系列・内容別に分類し記録したもの。

(4)　Actionについて

〇　個から見た集団の実態把握　　〇　個から見た集団の課題設定
〇　指導改善の方向性検討

3　研究の実際（対象児童：第３学年32名）

実態把握からテーマスキルを設定し，PDCAサイクルを通してどのように指導したかを以下に示す。

(1)　ステップ１

P　テーマスキル「自分の思いや願いを表出することができる」
D　学級活動(2)「話合いの時は意見を言おう」
　　学級活動(1)事前指導「アンケートの取りまとめ」
　　SST「よいこと発表」
C　学級活動(1)「なかよくなろう　たんじょうび会をしよう」
A　より積極的に思いや願いを表出できる指導の工夫

年度当初の様々な実態把握により，思いや願いを表出し，互いのよさを認め合う姿が少ないという課題を見いだした。そこで，年間を通して計画的に指導していくために，まず上記テーマスキルを設定した。学級活動(2)における指導を皮切りに，テーマスキルをはぐくむことができるよう帰りの会においても，SSTを利用して指導した。学級活動(1)では事前に意見を持たせておくことで話合いへの関心を高め，仲よくなれる誕生日会への思いや願いをいくつ

か表出することができた。

しかし，発言が一部の子どもに限られ，多くの意見にふれる機会が少ないまま話合いが収束してしまうという場面も見られた。

⑵　ステップ２

P　テーマスキル「積極的に自分の思いや願いを表出することができる」 D　SST「話してきめようミニ話合い」 　学級活動⑴事前指導「集会のイメージづくり」 C　学級活動⑴「みんなが楽しめるきもだめしめいろを作ろう」 A　相手の思いや願いを共感的に聞くための指導の工夫

ステップ１の課題を踏まえ，たくさんの意見にふれながら集団決定をしていくために上記テーマスキルを設定した。事前に「きもだめしめいろ」のやり方を計画委員に説明させることでイメージをつかませ，「ぜひやりたい」という思いを高めた。その結果，話合い活動ではより積極的に思いや願いを表出することができた。また，話合いの中ではゲームのことで意見が対立したが，ルールを変えて実現させるという集団決定に至った。これは，互いの意見を尊重し，折り合いを付けて話し合うことのよさを実感している姿の表れととらえることができる。次のステップではこうしたよさを価値付け，相手の話を共感的に聞くことの大切さに気付かせていきたいと考えた。

⑶　ステップ３

P　テーマスキル「表出された思いや願いを共感的に聞くことができる」 D　学級活動⑵「気持ちのよい話の聞き方をしよう」 　学級活動⑴事前指導「三段階討議法」 C　学級活動⑴「にぎやか楽しい秋まつりをしよう」 A　相手の思いや願いを汲み取り，互いの考えのよさに気付くための指導の工夫

ステップ２の話合い活動において見られたよさを取り上げながら，上記テーマスキルについての指導をした。また，発言者の思いに寄り添い，共感的に聞くためには，焦点を絞った話合いが必要と考え，三段階討議法の活用について計画委員に事前指導をした。その結果，「スタンプラリーがやりたい」という意見に込められた「思い出に残しておきたい」という思いに，うなずきとともに共感する発言が続き，集団決定に至ることができた。こうしたよさに気付くためには，提案理由に込められた思いや願いを読み解き，学級全体で共有することを大切にしていく必要がある。そのことにより，相手の思いや願いを受け入れながら，よりよい集団決定をめざすことができると思われる。

⑷　ステップ４

P　テーマスキル「相手の意見に込められた思いや願いを受け入れ，自分の思いや願いを表出することができる」 D　SST「そのわけいいですね」 　学級活動⑴事前指導「提案理由の共有」 C　学級活動⑴「なかよくなろう たんじょうび会パート２をしよう」 A　互いの思いや願いのよさを深めるための指導の工夫

相手の思いや願いを受け入れ，よりよいものをつくっていく経験をさせたいという意図のもと，提案理由の中にある大切な言葉を共有し，自分なりの解釈やイメージを持つことができるように事前指導をした。その結果，提案理由に込められた「誕生日の人が主役になるゲームがしたい」「前の誕生日会で祝ってもらったお礼がしたい」といった思いや願いを大切にしながら，よりよい集団決定をしていくことができた。このことが，誕生日の人の好きなスポーツや食べ物を紹介したり，紙ふぶきや誕生日バッジで盛り上げたりといった，提案理由の具現化をめざした集会活動へとつながった。

Ⅲ　研究のまとめ

１　研究の成果

話合い活動の発言内容についてディスカッションダイヤグラムを用いて分析すると，経験を重ねるごとに互いの意見を大切にし，表出された思いや願いのよさを認め合う発言が増えていることが分かる（**図１**）。このことからも，PDCAサイクルを通した意図的・計画的な指導が，互いに尊重し，よさを認め合う子どもを育成していく上で有効であったと言える。また，集会活動においても，互いの実践のよさをさらによりよい生活に生かしていこうとする姿が徐々に見られるようになってきている。

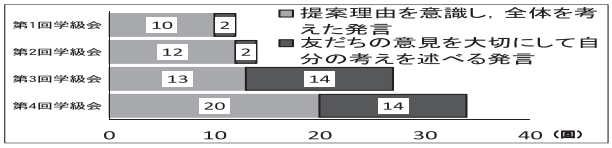

図１　学級活動⑴発言内容別の回数

２　今後の課題

本研究では中学年（第３学年）を対象にして研究を進めた。今後は，他学年においてもPDCAサイクルを通した意図的・計画的な指導は有効であるかを検証し，発達の段階に即した指導の在り方について研究を深めていきたい。